



—湾岸・アラビア半島地域ニュース—

サウジアラビア経済：サウジ銀行セクターに対する格付機関の見方

(22日付アラブニュース紙)

1. 大手格付会社であるフィッチレーティングス社は、サウジ銀行セクターにおける長期発行体デフォルト格付（IDRs：注；同社が定義する信用格付の一種）の短期および中期見通しを据え置いた。
2. サウジの主要10銀行のうち7つのIDRsは、必要時には政府が支援するであろうという期待によって支えられている。その結果、現在の格付けが反映されているように、政府が銀行を支援し続けるという傾向に変更がない限り、彼らの見通しは変わらないであろう。
3. 残りの3銀行は、その銀行単体の強靱な財務体力によって安定的な格付けを維持しているもので、円滑な資本の維持、資産の質向上、強力な資金調達などで今後も安定した見通しとなっている。
4. これらの見通しの変更は、資産の質、資金調達状況、あるいは時価総額の著しい悪化などによって検討されるが、現状ではそうなる可能性は低いと考えられている。これは国王が発表した2つの政府支出パッケージが経済を刺激することもあり、サウジ経済の2011年成長率は5.9%まで伸びることと、批准間近といわれている住宅ローン法がサウジの銀行にさらなるビジネスチャンスを生み出すためである。
5. サウジ銀行は当面、安定的な手数料、貸倒引当積み増し額の正常化、コストダウン等が2011年の収益性をサポートするであろう。一方において、低金利環境、与信拡張の鈍化と競争激化が今後の成長を制約する要因となろう。最良の収益機会がリテールバンキングにあることが各銀行においても認識されるようになってきており、このセグメントでのシェアを拡大するため一層の努力を行っている。
6. 同社は、サウジ銀行の流動性、資金調達、資本金の推移が今後の安定成長の上での鍵になると見ている。このうち流動性は、適切な貸出預金比率の維持と大口顧客の現預金などによって支えられている。サウジ銀行のいずれも2010年末で17%の平均自己資本比率となっており、市場の資金調達に大きく依存しておらず、資本の積み上げが順調である。
7. 同社は、サウジ銀行にとっての主要なリスクとして財務面での規模が拡張していることが上げられると述べた。

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799